

Japanese Red Cross Narita Hospital 糖尿病・内分泌代謝内科

糖尿病・内分泌代謝内科は糖尿病を始めとする以下にある病気の診断、治療を行っています。糖尿病については、ケトアシドーシスなどの高血糖緊急症（急性合併症）の治療から全く症状のない2型糖尿病の支援まで幅広く関わっています。そして軽症から重症の合併症（糖尿病網膜症→視力障害・失明、腎症→腎不全・透析、神経障害→壊疽・自律神経障害、動脈硬化→脳梗塞・心筋梗塞・ASO、感染症など）の治療についても他科と連携しながら行っています。

特に腎症に対しては、末期腎不全・血液透析まで転院、転科することなく継続して腎臓内科・透析センターと連携しながら糖尿病内科医及び同じスタッフが対応しています。1型糖尿病の治療においては、持続血糖モニター（CGM/FGM）の活用、インスリンポンプ導入（AEDも含む）も積極的に行っています。

糖尿病教室・教育入院、糖尿病腎症の教育入院などは、他職種や患者さんと協力しながらチーム医療を行っています。また、産婦人科、新生児科（NICU）と協力し、妊娠糖尿病（GDM）のスクリーニングから安全な出産・出産後のフォローアップ、1型糖尿病妊婦も含む安全な糖尿病合併妊娠の管理・治療に多職種も参加したチームで取り組んでいます。

内分泌疾患については、下垂体・甲状腺・副腎疾患を始めとして、各種負荷試験を行い診断し、他の高度医療機関とも連携を図り治療しています。



日本糖尿病学会教育認定施設

内分泌代謝・糖尿病領域専門研修施設
糖尿病・内分泌代謝内科部長

橘 香穂里

- ・日本内科学会認定医、総合内科専門医
- ・日本糖尿病学会専門医
- ・日本糖尿病学会教育指導医
- ・内分泌代謝・糖尿病領域専門研修指導医

01 研修期間

2年間(希望により1年単位の延長可能)

02 目的

内科専門医取得に十全な臨床知識および経験を積み、内科医として見識と自己研鑽能力の基礎を作る。またその基礎の上に糖尿病代謝内科医または内分泌代謝内科医への過程となるべき臨床経験を積む。

03 到達目標 (目標、長期目標、一般目標、取得手技、コンセプト等)

- (1)内科専門領域の急性慢性疾患の全てについて主治医としてマネジメントができ、専門的診療についてもその適否が的確に判断できる。
- (2)内科救急領域に必要な全ての応急的対応ができ、さらに専門的救急診療手技にも参加できる。
- (3)臨床医としての高い見識と広い視野を持ち、様々な条件の患者に対して、与えられた医療環境で最善を尽くすことができる。このため院内で行われる様々な医療に関する研修会に参加する。
- (4)内科学会内科専門医の資格を取得する準備を行う。症例報告などの学会発表も積極的に指導し、“内科専門医”取得を目指して総合的な観点から日々の診療を行うよう指導している。症例の経験では、新専門医制度に対応可能な指導体制も準備している。
- (5)他科、特に外科系各科に入院となる糖尿病合併患者(1型、2型問わず)が安全に手術を受けられるように、術前術後の代謝管理(経口薬の調節・中止、積極的なインスリン療法、経静脈的インスリン療法など)に積極的に協力・対応する。
- (6)糖尿病・内分泌代謝内科での臨床経験を積む。専門領域の疾患の診断と治療、最先端の検査・治療(インスリンポンプ療法-(CSII/AID)、血糖連続モニタリングシステム(CGMS)による評価を含む)、チーム医療(糖尿病教育・患者支援、地域との連携など)
- (7)内分泌疾患について各種負荷試験を行い診断し、その治療を行うことができる。

04 取得可能資格

学会名	取得可能資格	学会の研修施設等指定・認定状況
日本内科学会	日本内科学会内科専門医	日本内科学会教育病院
日本糖尿病学会	日本糖尿病学会専門医 (取得のための準備)	日本糖尿病学会認定教育施設
日本内分泌学会	日本内分泌学会専門医 (取得のための準備)	日本内分泌学会認定教育施設

日本専門医機構による内分泌代謝・糖尿病(領域)専門医制度にも対応しています。

05 研修期間中に経験する症例等について

1型糖尿病、2型糖尿病、DKA、HHSなど、糖尿病(その他肝硬変合併、膵炎合併)、妊娠糖尿病、糖尿病合併妊娠、糖尿病性合併症(糖尿病網膜症、腎症、神経障害)、下肢閉塞動脈硬化症(PAD)、内分泌疾患:下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎疾患、副甲状腺疾患など、低血糖症(インスリンノーマを含む)、脂質異常症・高血圧症・高尿酸血症、肥満症(高度肥満の超低カロリー食療法を含む)、その他ビタミン異常などの代謝疾患